

カナダ -政策金利据え置き、必要なら利下げ検討-

<政策金利を据え置き>

1月18日、カナダ中央銀行は政策金利を0.50%に据え置くことを決定しました。ポロズ総裁は会見で「米次期政権の政策などによってカナダ経済の下方リスクが現実のものとなった場合は利下げを検討する」と述べました。

声明文では「カナダ経済は、設備過剰の状態にあるうえ、労働市場では弱さが見られる」と指摘しています。また、個人消費は堅調に推移するものの、住宅ローンのルール変更や市場金利の上昇により住宅投資が冷え込むと予想しています。

同時に発表された経済見通しでは、原油価格の上昇や政府支出の押し上げ効果を見込み、2017年度の成長率を前回の2.0%から2.1%へ引き上げました。

<カナダドルは下落>

政策金利の据え置きは市場予想通りでしたが、ポロズ総裁の記者会見での発言を受け、カナダドルは対米ドルで下落しました。

1月18日の海外終値は、1米ドル=1.3269カナダドル、1カナダドル=86.40円となっています。

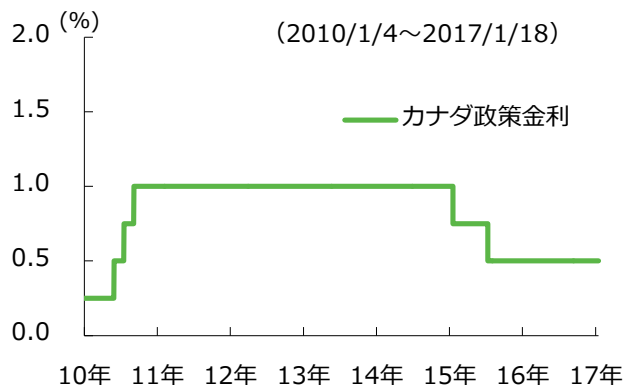
<今後の見通し>

カナダ経済は、2016年7月に開始した子供手当支給による消費の喚起やインフラプロジェクトによる設備投資の押し上げ効果、原油価格上昇による関連産業の回復などから、引き続き緩やかながらも回復の方向に向かう見込みです。

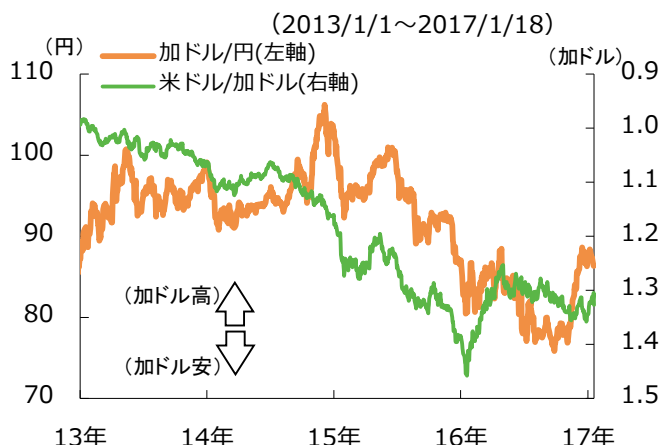
トランプ次期米大統領はNAFTA（北米自由貿易協定）の見直しを掲げており、カナダ経済にとってのリスク要因となります。ただ、同氏が掲げる米国経済の成長重視の政策は、隣国カナダの経済にとってもプラスの影響をもたらすとの見方もあります。

カナダ経済の回復が見込まれることやOPECの減産合意により原油価格が高値圏で推移していることなどから、カナダドルは底堅く推移すると予想されます。

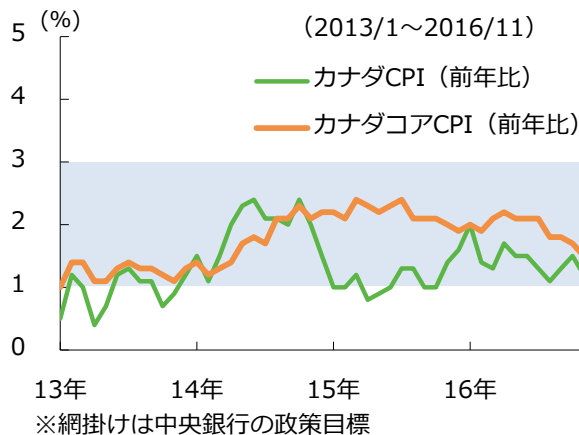
<政策金利の推移>



<カナダドルの推移>



<消費者物価指数>



出所：Bloomberg